令和元年１１月１８日

東濃社会教育だより No13 Plus
－地域学校協働活動編－

恵那県事務所
振興防災課　振興防災係
社会教育担当：長瀬
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL：0573-26-1111 内線 208

恵那東中学校の地域学校協働活動 ～今回のピックアップ～

南海トラフ地震に備え、地域社会人として貢献できる人材育成を目指し、『恵那東防災リーダー実行委員会』を平成 30 年度に発足しました。

現在、2、3 年生 19 名と有志の職員 3 名の合計 22 名で、防災士（岩井慶次氏）の支援のもと、校区の防災士育成を目的に活動しています。

９月１日の防災訓練では、各小・中学校で避難所を設営しました。中学生の防災リーダーが中心となって避難所の設営から運営まで行い（ベッドづくりや炊き出し等の訓練を実施しました）避難所本部（ミーティングルーム）を防災リーダー生徒に開放し、自発的で主体的な活動となるよう PTA 役員も支援しています。（年間 8 回の研修を実施予定。）

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

◆　防災活動を地域学校協働活動の核とした地域コミュニティとの協働による、地域社会人として貢献できる人材の育成

①　防災士の指導のもと、防犯・防災マップを作製し「災害図上訓練ＤＩＧ」を実施。

②　市危機管理課と協力して、市の防災計画研修を開催。避難所運営訓練ＨＵＧを実施。

③　大井町防災隊、東野地区防災隊と共に、市の防災訓練の計画について協議。

④　市防災アカデミー受講者を募集し、中学生が防災士の資格を取得。

⑤　市の防災訓練にて、避難所運営実践訓練を実施。「3 年：避難所設営訓練」、「２年：炊き出し訓練」、「１年：簡易ベッド、トイレの作成」を実施。

【防災活動を通して】

中学生が防災訓練の中心となって活動したことで、「中学生がこんなに頑張るならば、我々も…。」と地域の防災組織が主体的に防災活動に参加されるようになりました。2 年目となる今年度の防災訓練は、より実践的な訓練となるように中学校区内の小学校と連携し、各学校で同時に避難所設営・運営訓練を行いました。

防災活動を通して「自分の生命は自分で守る（自助）」の意識が高まり、生命の大切さについて深く学ぶことができました。また、災害時の危険性を正しく理解するとともに「地域社会人」として、地域に貢献する活動を通して、学校が災害時に果たす役割に気付き、地域の一員として貢献することの大切さ（共助）を学ぶことができました。

岩邑小中学校の地域学校協働活動の紹介

ふるさと学習の根幹として、岩村出身で江戸時代の儒学者佐藤一斎先生の言志四録を学ぶことに力を入れています。小中学校それぞれの学校運営協議会が活動をサポートして、ふるさと学習の内容が地域へ還元されたり、子ども達と地域が積極的に関わったりできるようになってきました。学校運営協議会の重点を「学習支援（ふるさと学習）の充実」と位置付け、同会の「学習支援ボランティア」がその主体となって取り組んでいます。

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①　【地域行事の活性化（小中学校の取組）】

小学校は「言志祭～佐藤一斎まつり～」に参加して群読を行った。中学生は「イベントボランティア(秋祭りの雅楽、女太鼓)」や「城趾の石垣清掃」等へ参加。

②　【地域の文化振興（小学校の取組）】

地域の伝統文化を学ぶ会「いわむら五っこ」が企画する「岩村体験プログラム」を発達段階に応じて体験。

③　【地域の観光の活性化（小学校の取組）】

西郷隆盛と佐藤一斎とのつながりを調べた内容を観光客に広げるために、学習支援ボランティアの支援を得て、調べた地図データや現代訳文をデジタル化し、ＱＲコードを読むことで閲覧できるまでにした。(岩村町には、250 もの言志四録の言葉が木版で掲示されている)

【ふるさと学習を通して】

ふるさと学習の成就感や、地域へ貢献することの達成感を味わうことができました。学校運営協議会の仕組みを工夫したことで、学校と地域が、互いによい関係を築くことができました。また、ＮＰＯ法人「いわむら一斎塾」から伝統文化についてより専門的なアドバイスをもらえるようになりました。子ども達の活動スケールが大きい場合（スマートフォンのアプリケーション化やＱＲコード化等、これまで学校単独では、取り組めなかったような活動）でも、学習支援ボランティアが主体となり子ども達を支えることで実現できるようになりました。

この取組は、ふるさとを愛する子を育てていると同時に、地域の活性化につながっています。今後、持続可能なものにしていくために、学校も地域も互いに、活動内容や組織構成について、さらに検討をすすめられるそうです。